

## 第2期富谷市教育振興基本計画 第4回策定委員会

日 時 令和4年10月31日(月) 午後3時～午後4時35分  
場 所 富谷市役所 3階305会議室  
出席者 委員長 吉村 敏之 副委員長 高橋 知美  
委員 大場 由美 委員 日諸 喜代子 委員 富田 智子  
委員 木村 一也  
欠席者 委員 金田 裕子  
事務局 富谷市教育委員会教育長 及川 芳彦 教育次長 三浦 敏  
教育部長 相澤 美和 学校教育課長 今野 善徳  
生涯学習課長 菊地 宏修 教育総務課長 千葉 正俊  
教育総務課長補佐 坂爪 道子 教育総務課主幹 高橋 凡子

### 次 第

- 1 開 会
- 2 挨拶 富谷市教育振興基本計画策定委員会 委員長 吉村 敏之  
富谷市教育委員会 教育長 及川 芳彦
- 3 協 議  
(1) 第2期富谷市教育振興基本計画(中間案)について  
(2) パブリックコメントの実施方法について
- 4 その他
- 5 閉 会

---

#### 【相澤部長】

ただいまより、第2期富谷市教育振興基本計画第4回策定委員会を開会いたします。開会にあたりまして、富谷市教育振興基本計画策定委員会 吉村敏之 委員長よりごあいさつを頂戴いたします。

#### 【吉村委員長】

ご多用のところ追加の委員会でお時間を割いていただきありがとうございました。また、事務局の方も大変だったと思いますが、お作りいただきありがとうございました。それを踏まえて次の富谷の教育の充実に向けて今日委員の皆さまから貴重なご意見を賜ることができたらと思っております。よろしく願いいたします。

#### 【相澤部長】

ありがとうございました。続きまして及川芳彦教育長よりご挨拶を申し上げます。

**【及川教育長】**

委員の皆さまこんにちは。第1回目が6月末の策定委員会でしたが、大変タイトな日程の中、本日第4回目ということになります。大変お忙しい日程の中、吉村委員長先生はじめ委員の皆さまには度々足をお運びいただき、いろいろ貴重なご意見をいただきまして本当にありがとうございます。いよいよ策定完了に向けて最終的な吟味、あるいはあとから事務局から説明がございしますが、パブリックコメントをいただくという段階までまいりました。本日も限られた時間ではございますが、忌憚のないご意見を賜ればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

**【相澤部長】**

本日、木村委員より少々遅れるとの報告をいただいております。木村委員が揃いまして6名のご出席ということになり、今回の会議が成立ということでご報告申し上げます。

それでは、次第3の協議に入ります。進行につきましては委員長よりお願いいたします。

**【吉村議長】**

はい、それでは次第3の協議に入らせていただきます。【資料1】第2期富谷市教育振興基本計画（中間案）について事務局より説明をお願いいたします。

**【千葉課長】**

それでは資料1の中身でございますが、前回第3回の策定委員会の際に委員の皆さまからご意見を頂戴した部分につきまして、修正をさせていただきます。まずはその部分について触れさせていただきたいと思っております。

資料3 2ページをご覧ください。上から2番目「3. 継続して学び合う力を育成する連携体制の充実」で朱書きの部分がございします。こちらの部分につきまして、第3回の中身から改めているところでございします。第3回では、“小学校へのスムーズな移行のため、アプローチカリキュラムの継続した推進を図ります”と記載がございましたが、今回朱書きの部分に改めまして、“幼児期から児童期の発達を見通しつつ、地域の幼児教育と小学校教育（低学年）の関係者が連携し、すべての子どもに学びや生活の基盤を育む幼保小の架け橋プログラムの推進を図ります。”といたしました。この点についてご審議いただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

**【吉村議長】**

いかがでございましょうか。

幼児教育を小学校に合わせるといよりは流れとして幼児期の学びを大事にしていこうということですので、そういうかたちでよろしくお願いいたします。

**【今野課長】**

学校教育課所管ということで、修正したところを説明させていただきます。

資料1の35ページ、中段のユネスコスクール関係でございます。前回、吉村委員長からあくまでユネスコスクールは学校が主体であるべきであるということと、新学習指導要領においても学校、地域、子どもたちの実態に応じて運用すべきと記載されているということを踏まえまして、朱書きのように訂正させていただきました。

修正前は朱書きの手前に“理解を深める教育を”そのあとに“本市独自に推進するため”と書かれておりましたが、ご意見、ご指摘を踏まえまして朱書きのとおり“学校が主体となって児童生徒や学校、地域の実態を適切に把握し”という文言を添えさせていただきますところでございます。

39ページをご覧ください。こちらは学び合いの部分でございますが、主要事業のなかで“「学びの共同体」パイロットスクールの指定”ということで記載しておりました。こちらは特段文言の修正はしませんでした。

ただ、吉村委員長より「パイロットスクールを指定することで各学校の過度な負担にならないように」というご指摘をいただいております。本市としましては、これまでも毎年度パイロットスクールの指定校をローテーションしており、しっかりと全体で質の向上を図っていききたいと思っておりますので、このとおりでご理解いただければと思います。各学校の過度な負担とならないよう、事務局としても配慮しながら事業を展開していきたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。以上でございます。

**【吉村議長】**

ありがとうございます。

2点とも、あくまで学校がメインということで、もちろん市の施策は大事ですが、学校が主体となって日々の教育活動を充実させるということなので、今ご説明あったとおりの修正でいかがでしょうか。よろしいでしょうか。では新たなかたちでよろしく申し上げます。

**【千葉課長】**

それでは、本日の進め方でございますが、前回計画の原案と、別冊でアンケート調査結果を渡していたかと思っております。別々のものになってございますので、今回の中間案につきましてはアンケート調査結果を推進施策の中に入れ込んだかたちで提示させていただいてございます。そういった状況でございますので、資料1の30ページの**【推進施策】**から最後の83ページの内容につきましてご審議いただきたいと思いません。

#### 【吉村議長】

前回、アンケートを頂戴いたしまして、ご多用中でも何人かの委員さんに丁寧にご覧いただきましたので、今回、中にアンケート結果を入れ込んでおります。アンケート結果と課題の分析、そして施策の方向性の整合性が問われるかと思えます。入れ込んだアンケート調査結果を踏まえて課題、施策のところでも文書として整合性のとれた流れを検討いただければと考えております。

施策1-1【幼児教育の充実】、【魅力のある学校づくり】、【学力の定着】、特に学校教育の部分がかなり量的に多いので、少し区切っていければと考えております。

30ページから40ページ、特別支援の前までのところで幼児教育、学校教育の部分をご検討いただければと思えます。

私のほうから全体の作りとして気になった部分が一点あるので最初に申し上げます。事前に文書に目を通して、すべての施策の書きぶりの点で、<現状>とあって、例えば30ページの【幼児教育の充実】ならば、“幼稚園教育要領～”“特別な配慮～”“東向陽台幼稚園～”となっています。従来現状でやられたことが3点ほどあって、そのあと市民アンケートという、個人的な見方かもしれませんが、アンケート結果は現状とはちょっと異なるのかなという感じがしました。しかもグラフが入ってきますと、次の課題と距離があいてしまうので、文書を読む時は、現状があって、課題がこうで施策はこうとるんだなというふうに流れるほうが、自然なのかなと思えます。

例えば、30ページですと3つの幼稚園に関する施策を取り上げたあとに1行ぐらいあけて、アンケートの結果ということで、“これこれこういうことになっています”ということを書き書いて、場合によってグラフは巻末のところで参考資料の前あたりに一括して並べればいかがかと、あくまで私の考えなんですけれども。

例えば33ページ、【魅力のある学校づくり】、グラフを入れるとレイアウトの関係でかなり余白ができて次の34ページへいって、“これこれこういう課題がある”ということで、現状と課題の間がかなり飛んでおり、提示の仕方、見やすさというところでご検討いただけたらと思えます。

一通り拝見した限り、アンケート結果も踏まえて説得性のあるものになっていると思えますが、是非、委員の先生方から意見を頂戴したいと考えております。まず、幼児教育、学校教育に係る部分についてご意見いかがでしょうか。

前回も大変時間がないところ、アンケートをしっかりと分析してくださった高橋委員、ご意見賜りたいのですが、いかがでしょうか。

#### 【高橋委員】

特に問題は無いかなと思えます。先ほどおっしゃっていたグラフの扱いですが、グラフがあった方が数字的に見やすいのかなと感じました。中に入れていただいた方が良く、後ろの方においておくとはぼ見ないかなと思えます。レイアウトの問題もある

かと思いますが、アンケート分析の根拠となるので、中に入っていた方が分かりやすいなと思いました。

**【吉村議長】**

分かりました。見解の違いがあるとは思いますが、確かに高橋委員がおっしゃるように、全部後ろにまわすと見にくいということであれば、例えば項目ごとにするとかですね。

私が気になったのは、あくまでグラフよりは施策が大事なので、どういう施策を行うのかということがしっかり伝わるのが大事かと思いました。また、今後、施策についてパブリックコメントを頂戴するとなると、やはり施策のところが大事かなと思いますので、そのあたりを一度どういうふうにすればいいのかということでご検討よろしくをお願いします。他にいかがでしょうか。

**【富田委員】**

私も、書き方の話で、36ページ、37ページを見た時にアンケートの結果が4つ出ていますが、グラフと上の方に“増加しています”“減少しています”という文書がついているのですが、一番上からいくと“減少している”“増加している”“増加している”“減少している”と4つあり、これは何を“増加している”とアピールしたいのか、“減少している”とアピールしたいのか、他のところにも繋がるかもしれませんが、このアンケートで現状はこうなんですということころをもっと伝えていきたいなと思いました。現状があって、アンケートがあって、それに対して課題があって、施策がある。この4つの“増加している”“減少している”は何を言いたいのか分からなかったので、ここの書き方で“何が”言いたいのかを出したほうが“これが現状なんです”ということに繋がられるのではないかと思います。

**【吉村議長】**

富田委員ありがとうございました。高橋委員がおっしゃる、グラフが根拠、エビデンスとして大事ですけれども、ただこれを並べられても文書としてみた場合に、富田委員のお話にあったように、この結果を踏まえて、例えば“減少している”というのはこういうことなのであって、それがどういう課題になるのか、どういう施策になるのかと次への方向性が見えるような一步踏み込んだ記述があるとよろしいかなと思います。“身についている”の割合が“減少している”のでこういったところが問題なんじゃないだろうか、とかですね。さらに読み取った結果が一文加わると随分違うだろうし、であれば、高橋委員がおっしゃるように、中にあっても違和感はないかと思っています。

私がここでグラフに違和感を覚えたのは、文章を流して読んでいると途中で止められてしまう感じがしたところで、これが現状の分析とそれを踏まえた課題を明確にするという形になるとよろしいかと思います。

37ページの「コンピュータを活用する力」が“身につけている”の割合が増加している、これは現状としてICTなどを施策としてやってきたのでそういう効果ができているとか、逆に、まだまだ教員のほうでICT活用が不足しているからどうかみたいなことがあって、ここから現状と結果を繋げ、さらにこんな課題があるというふうに繋げていくと非常に読みやすいかと思います。

中身については十分に検討しているので問題ないかと思いますが、出す以上はどうすればしっかり読んでもらえるか、次にパブリックコメントもありますので、そこについてもお知恵をいただければと思います。

中身についてもいろいろあると思いますが、一つの冊子として、より広く富谷の市民の方々に見ていただくという点では大場委員いかがでしょうか。例えば見てもらってPTA活動に活かしていくとか。

#### 【大場委員】

私は親としてこれを外から見ている立場なので、実際分からないところもあるというのが現状なもので、なんとも言えないところです。

全員が全員、確実に中身を理解して読んでいるかという点と違うとは思いますが、こういう道筋があって作っているというのが分かるのは良いのではないのかなと思います。

#### 【吉村議長】

社会に開かれた教育課程ということで、今回の新学習指導要領は家庭・地域と力を合わせた学校、ここでいう【施策の1-3 学力の定着を図る】というのも学校だけでなく、もちろんプロとして学校の教員が責任を負うのは当然ですが、そこで家庭や地域の協力を得るということになっていますので、共に教育を作っていく時に見やすいものになる必要があるのかなということでご意見をいただきたいなと思った次第でございます。地域との連携が非常に大事になってきますので、社会教育という立場で日諸委員、ご意見をお願いします。

#### 【日諸委員】

中身はとてもよくまとまっていると思いました。中を読ませていただいて気になったところで、34ページの子どもの読書習慣の定着や探求的な学習ということで、読書習慣の定着という意味では小学校からでは遅いのではないかという思いがあって、むしろ未就学児のうちから読み聞かせのプログラムを富谷幼稚園などで取り入れた方がもっと有効なのではないかと感じました。

富谷もこれから図書館ができ、調べ学習などいろいろありますが、それを小学校からではなくその前の未就学児のうちから、世の中では3歳までに1万冊ということを言われている時代なので、読み聞かせの習慣を未就学児のうちから付ければ小学校に入ってもスムーズに行くのではないかと感じました。

39ページですが、先生方のお話を伺っていても本当に大変だろうと思います。みなさん時間が限られている中、四苦八苦されているのではないかということを感じますので“教員の指導力の強化”と書いてありますが、合わせて、教員の働き方改革の視点も必要かなと思いました。

教員が生徒の指導に集中できるように、できるだけ指導以外の間接的な業務負担を減らすような工夫とか、地域の人やお手伝いできる人たちがフォローして、先生たちがプロフェッショナルなところを生徒に直接注げる時間をもっと余裕をもって作っていただけるようなことが出来たらもっと素晴らしいのではないかと思います。

また、ICT環境の有効活用とありますけども、これは素晴らしいことなのですが、やはり家庭学習というのは家で親が側にいて伴走してやるのが大事だと思うので、これを与えたからといって解決する問題ではないと思いました。家庭で子どもと一緒に学習する環境が大事で、そこに格差がおきかないような世の中、富谷市であればいいなと思いました。

#### 【吉村議長】

貴重なご意見ありがとうございました。日諸委員から貴重な3つの提案がありました。1つは読書習慣ということで、いまの赤ちゃんは、スマホなど下手するとデジタルばかりにいつてしまって、書物に親しむということがありませんので、幼児教育のところで今のご意見の読書習慣をつけることが1つかなと思います。もう1つは、全国的に言われている働き方改革というところで、中学校の部活動の問題がありますが、特に富谷の場合は学び合う授業、探求的な学習の促進とありますので、先生方がそこに力を入れられるような働き方改革というところで施策として何かあればということでした。それからICTですが、必ず家庭学習というところで必要となってきますので、学校と家庭、教師と保護者の共同というところで何か施策を入れていただくとよろしいかと思います。格差の問題が出ましたけれども、40ページの“学力差をなくす学習環境の推進”とありますので、そういうところで何か配慮いただければと思います。

#### 【高橋委員】

36ページ、37ページ、数字で気になった箇所がありまして、無回答が9.7%ですが、アンケートの無回答が全部9.7%になっていて、これはたまたまなのでしょう。他のアンケートを見ると数字がバラバラについているんですけども、ここだけ9.7%と全てのところで揃っていたのが気になりました。

#### 【坂爪補佐】

今の高橋委員の質問ですが、36ページから37ページの質問については、市民アンケートの問40の中で答える“お子さんが通う小・中学校において身に付いている

割合”という一括のまとまった質問となっておりますので、無回答の数値が揃って出てきたものと思われます。

**【吉村議長】**

承知しました。ありがとうございました。

学校教育のところについて、前回いらっしゃらなかったのも、内容も含めて木村委員どうでしょうか。学校教育に係る40ページまでのところでご意見をお願いします。

**【木村委員】**

学校現場を結構回っていて、私からは2つありまして、先生方の学び合いとありますが、必要なのは教材の共有化、Aの中学校で使っている教材をBの中学校でもデジタルであれば共有できる、そういうようなデジタルツールで活用できる事例をためておいて、どこの学校でも使えるというようなツールの共有化、そうすると教材を作る時間が減り、同時にWEB化すれば、時間がかかるようなところに時間を割り当てられます。それに加え、校務支援を充実させて先生方の負担を軽くする。また、印刷物をなるべく減らしたり、タブレットにあげて情報を共有したり、とにかく意識を変える。例えば学校では職員会議はペーパーレスでやるとか、全員、グーグルドライブで共有するなどという施策、教材の共有化と先生方の意識の共有化、その空いた時間で子どもたちに接する時間を多くするというのを、富谷としても取り入れていくと良いのかなと思いました。

**【吉村議長】**

貴重なご意見ありがとうございます。1つは教材の共有化、もう1つは校務支援で、先ほど、働き方改革について日諸委員からご意見ありましたが、具体的な方策としては子どもに向けての授業の質の充実ということで、単に業務量が減るだけではなく、教育の質としても色々な学校で先生が作った教材を共有したほうがよろしいので、教育の質の向上ということで教材の共有化、印刷物についても廃止、ペーパーレス化も推進というのは非常に大事だと思います。どうもありがとうございました。

それでは次に【施策1-4 特別支援教育】から【施策1-6 心身の健康づくり】ということで、41ページから53ページのところでいかがでしょうか。

特に特別支援教育はインクルーシブということで非常に重要となってきますし、健康もコロナで先が見えないということで、色々な問題がございますので、ここも非常に重要なところかと思えます。

私のほうで1つ気になりましたのは、先ほどデータの分析がどうかということになってくるのですが、45ページ“幼稚園や学校の先生に学力定着指導のほかに期待すること”というところで、色々なことが出てます。また、46ページのいじめ対応ということも色々出ておりますが、一方で先ほどから議論になっておりますように、学校の教員もこういうことが出来ればいいのですが、専門性ということで授業に



力を注ぐということがありますので、こうした結果がでてきているということについてどう受け止め、対応していくか踏み込んだ記述があってもよろしいかなと思いました。

なかなか道徳性について学校で教えるというのは限界があって、私の考えは古いかもかもしれませんが、本来はこういうことは家庭ですることではないかと思いつつも、これも一つの現状といえれば現状なのかなと難しいところがございます。施策1-5は、心の問題、道徳性の形成とか、生き方に係ってくる本当に難しいところかとは思いますが。

それでは、【施策1-7 地域・学校・家庭のつながりの強化】から【施策1-8 快適・安全・安心な教育環境の整備】ということで、本来、ここでは広い教育環境、今後の学校教育に求められている社会に開かれた教育課程ということで、地域、学校、家庭の繋がりということですが、いかがでしょうか。

55ページの“学校と地域の連携”というところで、割合が高いものは要望があるということですね、こういう事をもっとやってほしいという希望ととってよろしいですね。富谷市の学校ではホームページで結構情報を公開しているのではないかと思います、より一層の充実をというふうに捉えればよろしいでしょうね。

社会に開かれた教育課程と言われているのですが、高橋委員いかがでしょうか。

#### 【高橋委員】

41ページの特別支援教育の充実のところ、細かいことで申し訳ありませんが、この表記のなかに“障がいを持つ児童・生徒”だったり、“障がいのある人ない人”という表現でまとまっているんですが、42ページに“障がい児”という言葉がでてきて、施策の方向性ということで“障がいを持つ児童・生徒”と表現を柔らかくしたほうがよろしいのではないのかと思いました。あわせて主要事業の中で、内容は連携の推進を謳っているんで、窓口の充実も当然ですが、窓口プラス連携の体制の強化など、そちらのほうを謳っていくほうが、上との繋がりと合うのではないのかと考えました。実際にどのように繋いでいけばいいのだろうかということが、学校現場では悩ましいところで、2番の“多様な連携の推進”で、本当にそのとおりで感じましたので、この主要事業の中にそうしたことが入ると良いのではないかと思います。

また、45ページのグラフで50%になっている“子どもの良いところを見つけ褒めて、自己肯定感を高める”やはり“自己肯定感”は、とても大切なキーワードなので、この言葉を施策の中に入れていただけるといいかなと思っておりました。自己肯定感が年々低くなっているというのが課題になっていると考えておりましたので、そのあたりが入っていると現状とリンクするのではないかと感じていました。

#### 【吉村議長】

やはり“障がい”ということについて、いまは“障がい児”という言葉はあまり使わなくなっていますので、配慮ですね、“障がいを持つ児童・生徒”という表記にお

願いたいというところでは、また、連携というところで、非常に大事になってきますので、それについても踏み込んでいただけるといいかなと思っています。

また、自己肯定感というキーワードですが、施策を見ますと、道徳教育のところでは“自己を見つめ”とか“自己の生き方”とか、そうした言葉があるわけですが、もちろん道徳という規範意識も大事ですが、一方で自分を大事にしていく、自己肯定感を高めるというところで、それが他者との関係を築いたり社会的な規範性を高めることとなりますので、ご配慮いただけるといいかなと思っています。

書き込むのは難しいとは思いますが、先ほど富田委員からいただきましたアンケート結果の読み取りというところで、一文加わると印象がずいぶん違ってきますので、よろしく願いたいと思っています。

冒頭で申し上げたのは、ここから読み取れることが現状と繋がってれば、高橋委員がおっしゃったように、文中にあっても分かりやすいと思いますので、そのあたりも大変だとは思いますが、流れとして読めればということでご負担をおかけしますがよろしくお願いします。学校教育についてはここで一区切りということにします。

次に入る前に施策1-8のICT環境などがありますので、ここは是非木村委員からご意見を頂戴したいと思います。

#### 【木村委員】

ICTはツールとして使ってもらって、本当に必要なのはそれを使って課題解決能力を身に付けることだと思います。今はグーグルのレンズを使うと宿題の答えがでるということ子どもたちも知っているんですね。でもそうすると宿題の意味がなくなる。だからこそ答えのない答えを求めることが大事になってくるので、デジタルと組み合わせるという方向性もあるのかなと思います。あくまでデジタルはツールであって問題をどう解決していくか、そのためにもデジタルで共有化と拡散をし、先生方の負担を減らして不登校でも学べるような環境をICTで整えていくことが大事だと思います。

#### 【吉村議長】

昔はスキルという感じでしたが、今はそういう時代ではないので、木村委員からあったように、答えのない難しい問題をチャレンジしていくということで、探求型とか課題学習というところでの活用が大事ですね。

こういうことも含めて63ページの【4 教職員のICT指導力の向上】で、教材だけでなく、ICTを先導する素晴らしい先生方がいらっしゃるので、先生方が共有化していただければ。

**【木村委員】**

どうしても先端技術みたいなところがあって、民間の力のほうが絶対にいいので、例えば探求学習も委託し学習をサポートしていく、餅は餅屋というように、民間と連携していくことが大事かと。

**【吉村議長】**

わが宮城教育大学も情報にお詳しい先生、一人いらっしゃるんですが、とても手に負えないということで内田洋行ときちんとタッグを組むという時代ですので、民間の専門的な力を借りるということも大事だと思いますので、そこも含めてICT環境が非常に重要になってきますので、ご配慮いただければと思います。

次に【施策2-1 生涯学習推進体制の充実】64ページから【施策2-2 公民館活動の充実】71ページまでの生涯学習、社会教育というところでご意見いかがでしょうか。

ここは是非、社会教育ということで日諸委員いかがでしょうか。

**【日諸委員】**

職員の方が一生懸命取り組んで計画し、実行し、報告を受け、それ以上申し添えることがないくらい、みなさん一生懸命やられていて、こちらでどうこうしたらというのはおこがましくて言えないくらいです。

ただ、コロナでいろいろできなくなっていることがございまして、ただ、ウィズコロナといわれている時代ですので、コロナだからできないでは済まないようになってきているので、やはりそこは考えながらやらなくてはいけないとは思いますが、十分職員の方が考えてやっておられますので応援するしかないという感じです。

**【吉村議長】**

せっかく職員が力を入れていただいているので、さらにその頑張りを市民が支えていくというものがあればお願いします。

**【日諸委員】**

シルバー人材センターで仕事をさせてもらっておりますが、色々な知識や経験をもっている方がいらっしゃいますので、教職員の働き方改革にも繋がると思います。そういう人たちを活用して出番を作っていただければ、知識を活かせる場所があると思いますので、よろしく願いしますというところです。もう1つ、前回“褒める”のところのアンケートで“なんで悪いことをしたら怒るだけで、良いことをしたら褒めないんだろう”と思い、褒めて育てるではないけれど、そうして自己肯定感を高めるということをお伝えしたと思いますが、親が子どもに接している時間はあるようでなくて、先生方が子どもと接している時間の方が長いんですね。そんなときにわが子の良いところを見つけてもらって、一言でも二言でも褒めてもらえれば、そんなにあ

りがたいことはないんだということを思っていましたので、やはり親御さんはこういうことを思っているんだなと私も安堵しました。ぜひ、どんなことでもいいので一日一個でいいので褒めていただきたいなと思いました。

#### 【吉村議長】

確かにそうですね、貴重な意見ありがとうございました。家だけでは親が分からない良さがあるし、学校の集団生活で、以前高橋委員がおっしゃった、成田中では生徒が考えて活動しているという話を聞いて私も感動しました。そういうのはやはり家では見られないし、学校ならではの姿ですのでそういう良さをしっかり伝えていくところで学校の先生がさらに保護者からの信頼を得るという形に繋がっていくと思います。

それでは【基本目標3 芸術・文化の継承・創造、文化財の保護・活用】72ページ【施策3-1 芸術・文化の継承・創造】から75ページ【施策3-2 文化財の保護・活用】でご意見を頂戴したいのですが、いかがでしょうか。広く地域の文化を育んでいくということで、富田委員いかがでしょうか。

#### 【富田委員】

10年ほど前にブルベリッ娘を当時の町のキャラクターにしようと言って活動していたことがあり、本当に些細なことなんですけど、人とか物とか文化財をどうやって面白おかしく伝えるかということを考えてことができました。74ページのアンケート結果で“関心はある”“まあまあ関心はある”あたりが30%、本当に些細なことなんですけども、身の回りにあるよということをもっと分かってもらえたら少しでも興味がわいて、保護とか活用までいかななくても市のものとしてみんなが認識するのではないかなと思いました。成田、明石台地域は新しいので古いものがなく、南と北でなんとなく分かれている。市民性というわけではないですが、そういうのがあったりするんで、南のほうに田植踊がくるといった交流が施策としてあっても面白いかなと思います。施策として何かというわけではないですが、町のことを市民の人に知ってもらう意識みたいなもので、イベント的なことがあってもいいのかなと思いました。

#### 【吉村議長】

そうですね、伝統文化というのは、他の所から来た方は関心がなかなか向きにくいというのはあると思いますが、富田委員がおっしゃったように、ちょっとした些細な地域の宝物に目が向くようになっていくことが大事かなと思いました。

最後に【基本目標4 生涯学習スポーツの推進】ということで【施策4-1 生涯スポーツを楽しむ機会の充実】【施策4-2 指導体制の充実、競技スポーツの普及】【施策4-3 生涯スポーツを支える体制・環境の充実】76ページから83ページのところでご意見を頂戴したいと思います。

私も拝見し、コロナの影響が一番ここにきているなというところですが、一方で、先ほどのご意見にありましたが、ウィズコロナということも考慮しながら生涯スポーツを充実させていくことが重要になってくると思います。

国も地域にやるようにいうだけで、先ほどの特別支援教育の連携体制と同じで、中学校の部活動移行というのが地域スポーツと結びついていくようにとはいうものの、具体的な方策は難しいところです。

スポーツということで、部活の地域移行という話も出たのですが、大場委員いかがでしょうか。

#### 【大場委員】

種目によっては外部に行っている方が多いスポーツもあって、実際学校の部活動は、人が足りなくて試合するのもままならないというのも聞きます。地域の方で教えてくれる指導者を探すと、学校で行う以上、先生もその間に入らないといけないだろうし、やり方を吟味しないと逆に大変で、外から入ってくる方と先生の考えが違った場合など、大変になってくる部分があるかと感じます。

#### 【吉村議長】

先ほども出ました働き方改革の問題というのは部活のところはかなり大きく関わりますので、生涯スポーツにはなりますが、今後の方向として学校の部活も関わってきますので、高橋委員お願いできますでしょうか。

#### 【高橋委員】

これから進んでいくところなので、学校としても国からの内容によって動いていかなければならないと考えております。

生涯スポーツということで考えれば、市民アンケートをみると健康、体力づくり、いつまでも健康で、精神面でもリフレッシュしながら楽しい人生を送るための基盤づくりとみたときに、施策では、富谷スポーツクラブの充実だったり、環境を充実したりという内容で、今のところはここまでかなと考えております。その上でどのように繋いでいくのかということが、試行錯誤しながら、今後図っていかねばいけなかなと思っております。

#### 【吉村議長】

地域や場合、学区によっても事情は違ったりするのかなと思います。

みなさんのご協力により一通り目をとおすことができました。30ページから83ページまでのところでご意見をお願いします。

**【木村委員】**

今後、鍵になってくるのは学校と民間の連携だと思います。不登校だけれども塾には行く、スポーツクラブでサッカーはするというお子さんもいますし、障がいを持った児童が利用している民間支援センターの支援員さんとのケース会議をするとか、そうした民間の施設、塾、スポーツクラブなどと学校との情報共有によって子どもたちの置かれた立場を把握できるのではないかと思います。特に今はコロナで休んでいるのか、心の問題で休んでいるのか把握が難しいですし、ウィズコロナだからこそうしたことが重要になってくるかと思っています。

**【吉村議長】**

そういう時に、デジタルやICTを活用し、共有化ということも大事ですね。

**【木村委員】**

それが記録として残る、不登校だけれどもオンラインで学習プログラムをやることにより出席扱いになる、フリースクールも連携することで出席がとれるといったことがデジタル化のいいところかと思っています。

**【吉村議長】**

個人情報で難しいところもあるかと思いますが、子どもの成長発達を支えるという意味では、木村委員からもデジタル活用ということで教師の業務負担の軽減、教材の共有化、ペーパーレス、校務支援とありましたけれども、また新たに子どものために何ができるのか、民間との連携と大変貴重なご意見賜りました。

富谷はデジタルの最先端の方もいらっしゃるし、学校も宮城県に先駆けてデジタル化、ICT化が進んでいますので是非、富谷からそういう発信をしていただけると素晴らしいと思います。木村委員どうもありがとうございました。

他にはいかがでしょうか。富田委員お願いします。

**【富田委員】**

子ども達のICT活用というのは凄く充実していますが、他に例えば施設の管理をデジタル化したり、ICTを活用した施設の管理や受け手側の情報のアクセスへの良さや技術を生涯学習で入れていったりできないかなと思いました。ある年代まではスマホで、スポーツ施設の予約ができるかと思いますが、公民館をよく使う年代はそういうことが出来ないのではないかと思います。例えば最近、河野デジタル大臣が紙の保険証をやめると発言されて、ドキっとしたお年寄りはいらっしゃると思います。そうしたツールに長けなくてもいいですが、そうした情報にアクセスするという手段を生涯学習の中に取り入れていってもいいのではないかなと思います。せっかく情報公開されているのに見ていないというケースはたくさんあると思うので、子どもだけでなく、ある年代以降に対してもそうした学習があってもいいかと思いました。

もう1つ、43ページのタイトルで“障害”の“がい”が漢字となっていましたので全体を見直していただければと思いました。

**【吉村議長】**

細部まで見ていただきまして、ありがとうございます。

「老いてこそデジタル」という本を書いている高齢女性がいらっしゃって、高齢者こそこういう時代なので、デジタルを使って人生を豊かにすることは大事だということをマスコミに取り上げられていたり、そうした本もアマゾンなどで売られていたりしますので、情報アクセスに限らず、広げると社会に参加できるということなので、高齢の方がICT、デジタルを使えるようになるような生涯学習ということで考えていただけるといいかと思います。将来の富谷の教育のあり方について貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。

続いて(2)パブリックコメントの実施方法について事務局から説明をお願いします。

**【坂爪補佐】**

パブリックコメントについて説明させていただきます。

資料2をご覧ください。実施要領で説明させていただきます。

「1 趣旨」ですが、今回の本基本計画の策定にあたり、より実効性の高い内容とするために本計画(案)を公表し、広く市民の皆さまからご意見を募集するものです。

「2 パブリックコメントの対象」としては、第2期富谷市教育振興基本計画(案)になります。

「3 意見の募集期間」ですが、予定として令和4年11月8日(火)から令和4年11月27日(日)の20日間としております。

「4 公表・閲覧」については、市のホームページ、または閲覧場所を設けまして、富谷市役所2階の情報公開コーナー、または富谷市役所各出張所・公民館等で閲覧場所を設ける予定です。

「5 意見を提出できる方」として、市民の方、市民でなくても市内に通勤・通学している方、または市内に事務所等のある個人・法人、その他の団体の方としております。

「6 意見の提出方法」につきましては、2ページ目の【パブリック・コメント記入用紙】、または下記のいずれかの方法で提出していただくこととなっております。4つ方法がありまして、1つ目がメール、2つ目がFAX、3つ目が教育総務課あての郵送、4つ目が持参となっております。教育委員会の教育総務課でも、また各出張所のほうで閲覧しておりますので出張所・公民館への持参ということでも考えております。

「7 パブリック・コメントの公表時期」ですが、11月27日までとしておりまして、次回、第5回策定委員会を12月12日に行う予定ですが、このパブリックコメ

ントで出された意見とそれに対する市の考えを示した上で、それを反映させた最終案を皆さまにお示ししたいと考えております。

パブリックコメントの公表時期については、令和4年12月中に市のホームページで掲載する予定です。パブリックコメントについては以上となります。

**【吉村議長】**

ご説明ありがとうございました。パブリックコメントの実施について説明ありましたが、ご質問ご意見ありましたらよろしく申し上げます。

(質問なし)

**【吉村議長】**

では、次回、このパブリックコメントを踏まえた最終案の検討ということになりますのでよろしく申し上げます。

次第4 その他ということで、事務局のほうからよろしく申し上げます。

**【高橋主幹】**

それでは、次回第5回策定委員会の日程でございますが、12月12日(月)午後3時より開催したいと思います。開催通知につきましては後日送付させていただきます。よろしく申し上げます。

**【吉村議長】**

今回の最終の策定委員会ですが、12月12日(月)午後3時からということでございます。それでは議事進行をこれで終了しましたので事務局へお戻しします。

**【相澤部長】**

議長ありがとうございました。委員の皆さま、ご審議ありがとうございました。それでは閉会にあたりまして高橋副委員長よりご挨拶をお願いいたします。

**【高橋副委員長】**

本日はありがとうございました。皆さまからのご意見を伺い、子ども達を預かっている最前線の者としては、気持ちを引き締めながら子どもたちを育てていきたいという感じですが。宮城県の大きな問題として、不登校生徒が増えているという実情がございます。私は自分が育てた子どもたちはどんな環境にあっても生き抜いてほしいなど強く感じております。その基盤となるものの一つは自己肯定感、自分を自分が許せたり、愛せたりする者というのは絶対に生き延びれると思っております。そしてもう一つは誇り、子どもたちが富谷市で育ったというものを誇りとして生き抜いてほしいと思いました。



面白いと思ったのが、文化財の話だったのですが、文化環境のデータとしては72ページ、市の文化的環境の満足度というのは非常に高いにも関わらず、74ページを見ると関心度は少し低い。校長室で富谷市の歴史の本を読むのですが、とっても面白いんです。なるほど、だからこういう道路があるんだとか気持ちはブラタモリの気持ちで読ませていただいているのですが、こういう財産を子どもたちがもっと知ったら、自分たちの住んでる町について、こういう理由でこういうことで、と見方が変わって、もっともっと誇りが高まるのではないかと、そういう意味ではこの基本計画の中で、もっと地域や民間と連携し、子どもたちを育てていかなければいけないと改めて感じました。

本日は本当にありがとうございました。

**【相澤部長】**

ありがとうございました。以上をもちまして第2期富谷市教育振興基本計画 第4回策定委員会を終了します。お疲れ様でございました。